

さいたま市立浦和博物館館報

## あかんさす

VOL. 42-1  
通号 第 106 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

みぬまつうせんほり  
見沼通船堀のしくみ実験  
じっけん

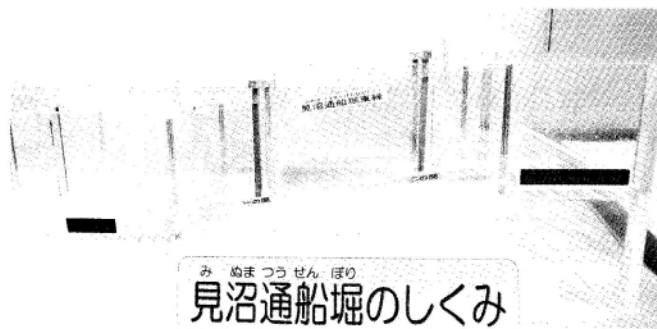
浦和博物館では、夏休み期間中や小学4年生の社会科見学時に、見沼通船堀の模型を使って、船が通るしくみの実験を公開しています。

アクリル製の模型は、両端に見沼代用水路を、中央には芝川を配し、見沼代用水路と芝川を結ぶ水路【通船堀】を設けています。水路には2か所の閘が設けられており、その閘にアクリルの板を積んだり、外したりすることで、閘と閘の間の閘室内の水量を調節することができます。

実験では、小さな船を浮かべ、用水から通船堀を利用して芝川へ下る方法と、芝川から通船堀を利用して用水へ上る方法を再現します。



▲模型を使っての見沼通船堀のしくみ実験



▲模型の側面

実際の通船堀とは縮尺や閘枠<sup>せきわく</sup>の構造自体は異なりますが、平面的な模式図とは異なり、実際に、水が流れ、模型の断面で閘室内の水量の変化が見え、船が上り下りする様子などがよくわかるため、子どもたちや保護者の方々にも、理解しやすかったようです。

## ■ 目 次 ■

緑区芝原の百万遍	2
井澤弥惣兵衛為永のゆかりの地を訪ねて	3
親子探鳥会の記録	3
秋・冬の行事カレンダー／日誌抄	4



なむあみだんぶつ なむあみだんぶつ

## ～ 緑区芝原の<sup>ひやくまんべん</sup>百万遍 ～

緑区芝原では、毎年5月21日、氏神様である神明社で春祭りが行われます。

「村祈祷」と呼ばれ、昭和30年頃までは、南区太田窪の行弘寺から、大般若経20巻の入った箱型のお神輿を迎え、神明社で御祈祷したのち、各家を回ったといひます。現在は、諸般の事情により神輿の渡御はありませんが、家内安全・無病息災の御祈祷が行われています。

また、この日は、神明社の他に地福院に年配の女性が集まり「南無阿弥陀仏」と唱えながら百万遍の数珠繰りが行われます。



▲緑区芝原の百万遍

百万遍とは、故人の追善や自身の往生、家内安全・無病息災・疾病退散などを祈願し「南無阿弥陀仏」と百万回念仏を唱えることで、僧侶が一人で修行として行う場合と、念仏講中が車座になって行う場合があります。

ここ、芝原地区の菩提寺の地福院では、念仏講中によって百万遍が行われています。芝原地区では、2月24日の地蔵の日、春の彼岸、村祈祷、盆の8月24日、秋の彼岸に念仏を行っていますが、百万遍が行われるのは村祈祷の日のみで、今年は、8名が午前9時に集まり、百万遍の念仏を行いました。中央に数を数える人と鉦を叩く人、その周囲に数珠繰りを行う6名が座ります。

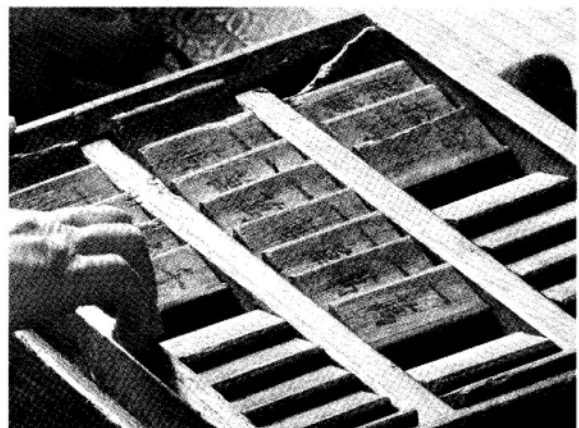


▲鉦は明治29年の銘あり

円陣の中央に座った2人のうち、数を数える人が「なむあみだん

ぶつ」と念仏を唱えると、その後に残りの7名が「なむあみだんぶつ」と続き、中央に座ったもうひとりが鉦を叩きます。これを1セットとして、計数器の札が裏返されます。

計数器は高さ20cm、幅35cm、奥行24.5cmの箱型で、中に百万遍の数珠、鉦を納めておくことができます。蓋の裏側には、数を数える札が30枚仕込まれています。札1枚は、高さ5.5cm、横3.2cm、厚さ5mmの大きさで、10枚ずつ3段に分かれています。一番下の段に「千遍」、真ん中に「一萬」、上段に「拾萬」と片面にのみ数字が墨書きされています。芝原では、「なむあみだんぶつ」と唱えるごとに「千遍」の札が1枚ずつ裏返されます。10回唱えると「一萬」の札を裏返します。次からは「千遍」の札を表に返していきます。100回唱えると「一萬」の札が全て裏を向きます。次いで「拾萬」の札が1枚裏返ります。



▲計数器 (62万6千遍の札を裏返す)

「拾萬」の札を1枚裏返す毎に、役を交代し、別の2名が中に座り、念仏の先達を行います。途中休憩しながら約2時間、「拾萬」の札がすべて裏返り、念仏は終了となります。唱えた「南無阿弥陀仏」は1人1000回となります。

百万遍の数珠繰りは、市内各所で行われていたとみられ、数珠のみがお堂などに残されているところもありますが、念仏講への参加者の減少により、現在行っているところは数少なくなりました。西区の高木でも百万遍を行っているという聞いていますが、数の数え方が芝原とは異なるということです。またの機会に報告させていただきます。(T)



いざわ や そ べ え た め な が  
井澤弥惣兵衛為永のゆかりの地を訪ねて

本年6月・緑区歴史交流会主催事業に参加し、見沼を干拓した井澤弥惣兵衛為永の生誕地（和歌山県海南市野上新）をはじめ、海南市立歴史民俗資料館、亀池（海南市阪井）、野上八幡宮（紀美野町小畑）和歌山城（和歌山市一番丁）など、為永ゆかりの地を訪問しました。

特に宝永7年（1710）に築造された「亀池」の堤防は、高さ16メートル、長さ98メートルもあり、それまでの谷田池という小さな池を拡張し、周囲

4 kmの灌漑用の溜井とするために築かれたものです。工期は、1月16日から4月20日までの3か月で、延べ55,000人を動員しました。多くが農民ですから、水田の作業を行わない農閑期に工事を終えています。

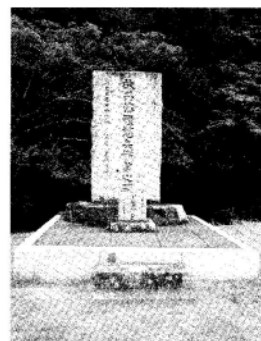
また、見沼代用水路の開削も農閑期の僅か半年で行っていることから、為永は、土木技術の高さもさることながら、人心を束ねる術も持ち合わせた人物だったのでしょう。



▲亀池



▲亀池の堤防と井澤弥惣兵衛翁の碑(左端)



▲井澤弥惣兵衛翁の碑

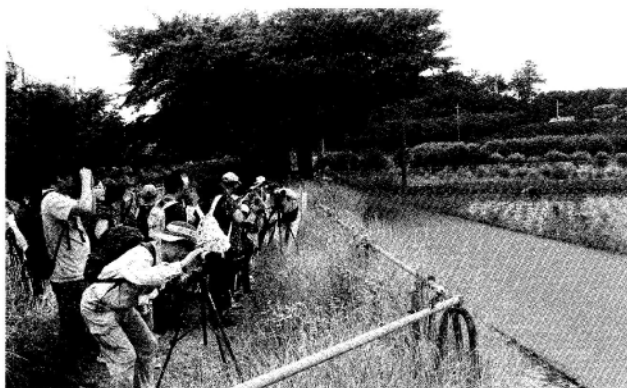
## 親子探鳥会の記録

6月8日(土)、「日本野鳥の会埼玉」の御指導のもと、小学生とその保護者を対象とした「親子探鳥会」を開催しました。

会場は、当館の北にひろがる「見沼たんぼ」。見沼代用水西縁から芝川の土手を回るコースで行いましたが、西縁用水では巣立ち前のシジュウカラのヒナ、芝川ではツバメの子育てや、川で泳ぐ

カルガモの親子が観察できるなど、この時期ならではの探鳥会となりました。

ちょっと驚いたのは、芝川土手に自生した「ゼニアオイ」の群生。きれいな花ですが、地中海沿岸原産の植物の繁茂は、環境の変化?と脅威を感じる光景でした。



▲見沼代用水西縁から芝川方面を観察



▲芝川の土手に繁茂したゼニアオイ

### ● 出現鳥 / 16種 ●

アオサギ・カルガモ・コジュケイ・キジ・コチドリ・キジバト・ヒバリ・ツバメ・ヒヨドリ・シジュウカラ・ホオジロ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス



## 秋・冬の行事カレンダー

### ●特別展「幕末のお医者さん・高野隆仙」

**期間** 10月26日(土)～12月15日(日)  
**内容** 幕末の大間木村(現 緑区大間木)で活躍した医者・高野隆仙の生涯と当時の医療について紹介します。

### ●特別展関連講座「旧高野家離座敷と高野隆仙の生きた時代」

**日時** 12月7日(土) 14時～15時30分  
**会場** 大古里公民館  
**講師** 高山清司氏(元さいたま市立博物館長)  
**定員** 成人70名  
**申込み** 11月20日(水)9時から、電話にて受付(定員になり次第終了させていただきます)

### ●学芸員による特別展展示解説

**日時** 11月10日(日)、11月30日(土)  
 10時～、14時～

※内容や日程などの詳細は、「市報さいたま」をご覧ください。

### ●特別公開「小茂田青樹筆 茶の花図」

**期間** 11月1日(金)～11月10日(日)  
**内容** 文化財愛護週間にあわせ、市指定有形文化財(絵画)小茂田青樹筆「茶の花図」を公開します。

### ●やさしい拓本講座

**日時** 11月16日(土)、20日(水)  
 9時30分～、13時30分～  
**定員** 各回成人5名  
**申込み** 11月6日(水)9時から、電話にて受付(定員になり次第終了させていただきます)

### ●企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」

**期間** 12月21日(土)～5月6日(火)  
**内容** 昭和30年代のくらしの道具を中心に、生活用品の移り変わりを紹介します。

### ●企画展関連講座

- 昔のあそび 1月11日(土)～13日(月)
- おもちゃ作り 1月13日(月)

## 日誌抄

- 4/21(日) 定例探鳥会(中止)
- 5/16(木) 三室小学校(6年生)地域学習
- 5/17(金)～6/30(日) 企画展「収藏品展」
- 5/19(日) 定例探鳥会
- 6/8(土) 親子探鳥会
- 6/16(日) 定例探鳥会(中止)
- 6/18(火) 三室小学校(3年生)地域学習
- 6/20(木) 三室小学校(2年)地域学習
- 7/2(火)～5(金) 臨時休館(空調工事)
- 7/9(火)～12(金) 臨時休館(燻蒸消毒)
- 7/19(金)～9/1(日) 企画展「夏休み子ども博物館」
- 7/21(日) 定例探鳥会
- 7/23(日)～8/6(火) 博物館学芸員実習
- 7/26(金)～8/4(日) 昔のあそび体験
- 7/27(土) 手作りおもちゃ
- 7/28(日) クイズ大会
- 8/1(木)～9/1(日) 文化財さがし
- 8/3(土)・4(日) 見沼通船堀のしくみ実験
- 8/18(日) まが玉作り・定例探鳥会
- 8/25(日) かんたんおもちゃ作り  
見沼通船堀のしくみ実験
- 9/26(木) 消防訓練



▲学芸員実習(拓本)の様子

さいたま市立浦和博物館報 **あかんさず** No.106  
 編集・発行 さいたま市立浦和博物館  
 〒336-0911 さいたま市緑区大字三室2458番地  
 TEL・FAX 048-874-3960  
 発行日 平成25年10月16日  
 ホームページ  
<http://www.city.saitama.jp/hakubutsukan.html>  
 E-mail [urawa-museum@city.saitama.lg.jp](mailto:urawa-museum@city.saitama.lg.jp)

この館報は2,000部作成し、一部当たりの印刷経費は25円です。

